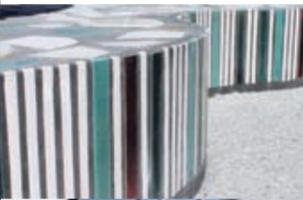




④デザインと施工は「東京ディズニーランド」や「博多駅」の造形も手がけた「ヒグチ工芸」が技術を駆使。⑤「うれしいひなまつり」と「かもめの水兵さん」のメロディーなどを鉄琴で奏でられる解説板。除幕式では堀田薫の世良めぐみさん・芽唯さん親子が演奏。



④庭全体で上野の里を表現し、窯元の位置にオブジェを配置。⑤彦山川に見立てたラインを太陽光発電で自然発光するLEDブロックが夜間ブルーに点灯、幻想的に彩る。



④来賓や関係者約100人に見守られた除幕式。⑤童謡デュオのDOYO組が河村童謡を愛唱。辻村社中による上野焼を使った野点も披露された。

④図面のカタチに合わせた約千枚の陶板を配置。④収縮や配色を計算し上野焼窯元が丹精込めて作陶。⑤昭和41年建立の「童謡一路碑」を天郷青年の家跡地から移設し、文字を彩色。



桃



上野の里ふれあい交流会館
「上野焼陶芸館」(仮称)と農産物直売所「ふれあい市」からなる施設。美しい自然と深い文化が息づく上野の資源を連結させ「おいしさ」と「うるおい」を発信しています。

河村光陽童謡ファイル①

♪うれしいひなまつり

桃の節句の定番曲となった河村光陽作曲の「うれしいひなまつり」。作詞者・サトウハチローが詩に込めた家族に対する思いと「ひなまつり」という伝統行事を光陽が美しい日本旋律で表現した名曲です。光陽の曲は、主として日本音階が重視されていますが、とりわけ「うれしいひなまつり」は、雅楽の演奏にも合うように作曲され、つづみのリズムを基調とした華やいだ琴の響きの伴奏が特徴。河村光陽の音楽世界を象徴する名曲です。



←「うれしいひなまつり」のオブジェのミニチュア。「協奏の庭」の除幕記念として制作され、会場で大評判を集めた。

地域資源を融合させ「見る」「触れる」「感じる」を基本にした「後世に残る観光拠点」と「地域文化」の創出を図りました。

この事業では「箱物ではなく維持経費のかからないもの」「地域イメージの向上とPR性の高いもの」「子どもたちの夢と情操をはぐくむもの」という理念を基本に取り組まれ「協奏の庭」のほか「シンボルモノコメント」3基を町内に設置。観光促進や産業振興、文化意識の高揚に加え、地域が誇る伝統と文化を身近に感じられる環境が整備されています。

桃の節句を前にした2月27日、「協奏の庭」上野焼と雛の里「ルルるんパーク」が華々しく除幕。文化の香り高い町づくりの貴重なステージ、憩いと安らぎの空間、町の魅力を町内外へ広める存在として、町に彩りを加える観光スポットが姿を現しました。



浦田弘二町長 *Hiroyuki Umeta*
「郷土が誇る偉人と貴重な伝統文化、この2つの宝が融合し、町にまたひとつ魅力ある場所ができました。協奏の庭は、観光のまちづくりの拠点としてはもちろん、地域文化の土壌を作っていくためにも活用し、今後の町の発展につなげていきたいと考えています。」

町のシンボル、秀麗な福智山の麓にある上野。四百年以上の伝統を誇る上野焼の産地であり、数多くの名曲を作曲した河村光陽の生誕地です。上野焼は、小倉城主の御用窯として趣と品格が追求され、卓越した技を駆使する匠の手により、格調高い茶器と技法が創り出されてきました。河村光陽は、豊かな自然と伝統にはぐくまれたこの地で感性を培い、その才能を開花させ、今でも歌い継がれる幾多の童謡を世に残しています。

昨年度、町は財団法人日本宝くじ協会の助成で「上野焼と童謡の里づくり事業」に着手。「上野焼」と「童謡」という2つの

→庭園でひときわ目を引く「うれしいひなまつり」をモチーフとしたオブジェ。上野焼で緑青に彩られた④がお内裏様、淡い桃色と紫で飾られた④がお雛様。

童謡と上野焼の協奏

協奏の庭

日本の伝統美と美しい日本旋律の協奏をテーマに創作した「協奏の庭」が、上野の里ふれあい交流会館の一角に完成。地域の魅力が融合した新たな観光スポットが、この町に誕生しました。

